

東京

旧体育館 後世まで



東京女子大 学生、保存訴えるイベント

東京女子大学(杉並区)が85年の歴史ある旧体育館の解体を計画している問題で、大学側に解体凍結と保存を求めている学生たちが20日、卒業生や建築家を招いて旧体育館で講演会を開き、学内外から約90人が参加した。初めて訪れた人も多く、体育館としては珍しい暖炉のある部屋を見学したり、カメラで撮影したりしていた。(小川慎一)

講演会では、同大の卒業生で直木賞作家の永井路子さんが「他の大学にない特色ある体育館を壊すことはまったく理に合

解体が予定されている旧体育館での講演会には多くの人が集まった。杉並区の東京女子大で

「楽しめるような活用法を」

わない。残すべきだという思いが日々高まっている」と話し、「保存運動はまだ終わっていない」と強調した。

文化財保存に詳しい建築士山田利行さんは「旧体育館を保存して大学の創立者や設計者の理念に基づき、人々が交流する社交館にするべきだ」と提案。

また卒業生からは「歴史のある建物を残すことは大切。写真や模型では伝わらないものがある」という意見が述べられ、現役学生も「解体せずに私たちが楽しめるような活用法を考えてほしい」と訴えた。

旧体育館はチェコ出身の建築家A・レーモンドの設計で、一九二四年に完成。鉄筋コンクリート二階建てで、館内の五部屋に暖炉がある。

大学側は二〇〇六年五月、キャンパス整備の一環で旧体育館の解体を決定。六月から工事を始め、跡地を芝生広場にすることを予定。